

特別授業:世界の考古学に参加しよう

地方における博物館の役割

ペルー共和国アンコンでの活動紹介

講師:市木尚利さん(ペルー:リマ日本人学校講師)

2013年12月26日(木)18:00~19:30

立命館大学衣笠キャンパス啓明館1階 学芸員課程実習展示室

(日本史学専攻共同研究室)

アンコンはスペイン征服以前、ペルー海岸で最も大規模な墓域の一つとして利用されてきました。遺跡周辺には貴重な生態系やロマス現象(砂漠中に植物が繁茂する)もみられます。文化的景観や生態系の保全ならびに社会的利用には、考古学者と様々な分野の研究者の間で協力関係をつくる必要があります。



アンコンの博物館 (HP より)

講師略歴

2003~2005年 青年海外協力隊活動に参加(チリ共和国サンペドロ・デ・アタカマ考古学博物館において活動)

2006年 立命館大学大学院文学研究科日本史学専修前期博士課程修了

2006~2012年 ペルー・カトリック教皇大学大学院プログラム「アンデス学研究科」修士課程で考古学を専攻

2012年 ペルー国立フェデリコ・ビジャリアル大学非常勤講師

2013年~ リマ日本人学校常勤講師。立命館大学環太平洋文明研究センター客員研究員。ペルー中央海岸のアンコンにおける後期中間期・インカ期(紀元後12世紀~16世紀)の土器研究。

*この授業は考古学演習II(X6)の補講です。どなたでも聴講できます。